

Medial meniscus extrusion is invariably observed and consistent with tibial osteophyte width in elderly populations: The Bunkyo Health Study

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 根岸, 義文 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002645

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2376 号

Medial meniscus extrusion (MME) is associated with tibial osteophyte width in urban elderly populations -The Bunkyo Health Study-

高齢者集団において、内側半月板逸脱 (MME) は内側脛骨骨棘幅と関連する -文京ヘルスタデ
ィー-

根岸 義文 (ねぎし よしふみ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、本邦の大規模高齢者住民コホートデータを用いて、変形性膝関節症 (膝 OA) にて認められる形態変化のなかでも重要な病態のひとつである半月板逸脱が骨棘と関連することをはじめて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

膝 OA は、高齢者の移動能力を低下させ ADL 低下を招く原因である。進行した場合、人工膝関節置換術や骨切り術などの外科的治療が一定の成績を残せるまでに発達している。しかし、現在の膝 OA の治療はすべて疼痛の改善を目的としており、その時点で膝 OA はすでに進行していること、膝 OA 早期の軟骨摩耗は病態の最上流ではなく、半月板の変化に伴って軟骨摩耗は発生する可能性が示唆されつつある。

申請者らは、早期膝 OA 患者では半月板損傷がなくても逸脱が発生していること、そして骨棘には骨成分に加え軟骨成分が存在し、それを加味すると半月板逸脱は内側脛骨骨棘幅と関連することを示している。本研究では、平均年齢 73 歳の痛みのない健康な高齢者においても、大多数がすでに初期膝 OA を示し、半月板逸脱と内側脛骨骨棘幅は申請者らの先行研究と同様に強い関連を示した。半月板逸脱の発生機序は未だに不明だが、本研究はその機序に骨棘形成が重要な要素であることを示唆し、膝 OA 研究の更なる発展に寄与する知見となる可能性を秘める。

申請者らの先行研究を含め近年蓄積されつつある半月板逸脱についての知見から、早期膝 OA の対策には、骨棘形成の制御が重要となることが示唆される。骨棘は、長年にわたり膝 OA の代償性変化としか認識されてこなかったが、その制御は早期膝 OA の軟骨摩耗を招く病態である半月板逸脱の制御に必須となる。現時点では骨棘形成の制御は不可能だが、基礎的研究でも骨棘形成に光が当たることで、真の意味の早期膝 OA の対策の前進に寄与するものとする。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。